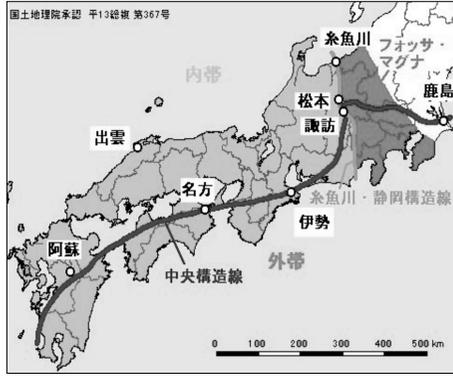




川内原発を今すぐ止める 伊方原発動かすな



今回の熊本・大分大地震で被災された皆様にお見舞い申し上げます。今回の地震では、北東、南西にと地震が頻発し、未知の断層も出現しました。あらゆる専門家たちが予断を許さない状態であると警鐘を鳴らすと同時に、本州から九州を貫く中央構造線断層帯の問題も注視されています。この中央構造線上にあるのが愛媛県伊方原発であり、中央構造線の延長線上近くにあるのが鹿児島県川内原発です。

「川内原発を止めてください」というネット署名はまたたく間に十二万を突破しました。また、数多くの団体が九州電力に対し停止を要求しました。しかし、九電も国も規制委員会も大丈夫だと居直っています。福島原発事故を経験した今、そんな無責任な態度は許されません。

川内原発の近くには断層帯、市来断層帯という二つの活断層があります。え、原子炉直下に未知の断層帯があると指摘する地質学者もいます。多くの報道番組が原発問題に尻込みするなか、テレビ朝日「羽鳥慎一モーニングショー」のコーナー「そもそも総研」はこの問題をとりあげました。もっとも懸念される地域が四国北部であることや、その長い断層が動けば、地震が起きた場合はマグニチュードハクラス、伊方原発近辺では震度七クラス揺れが起こるといふ専門家の意見を紹介しました。

くわえて、伊方原発は

組織を強化拡大し、階級的労働運動の発展をめざそう！

中央構造線が走る断層からわずか五キロの場所にあること、今回の熊本・大分大地震で垂直加速度一三九九ガルが記録されたことに対して、伊方原発は最大でも四八五ガルでしか設計されていないことなどをリポートしました。さらに原発稼働中に事故が起こると停止中を起こるのでは、被害がケタ違いだという点も踏まえ、「熊本地震のメカニズムがわかるまでは、臆病なくらいの対応がふさわしいのではないか」とまとめました。



ショーラム原子力発電所

福島第一原発事故の経験に照らせば、「国家主導での具体的な可視的な避難計画

避難計画を重視した

大津地裁決定

地震大國日本には廃炉予定も含めて五四基もの原発がありますが、もしも時の避難計画は十分なものばかりです。三月九日に大津地裁が出した高浜三・四号機運転差し止め決定はこの避難計画を重視しています。

福島第一原発事故の経験に照らせば、「国家主導での具体的な可視的な避難計画が策定できなかったために、住民の反対で一度も運転されなかった原子力発電所があります。アメリカ合衆国ニュー

ヨーク州ショーラムにあるショーラム原子力発電所です。一九七三年から一九八四年にかけてロングアイランド電灯会社によって六十億ドルをかけて建設されましたが、五年後一ドルで州に売り渡され、一九九四年に閉鎖されました。一九七九年のスリーマイル島事故、一九八六年のチェルノブイリ事故があったからです。

日本でも大津地裁の決定をバネにして、「避難計画が十分でない原発は運転するな」という声を大きくしていきますよ。

アート・アド分会 N